

# 山岳年鑑'94

岩と雪 特別編集



THE MOUNTAINEERING ANNUAL '94



哲也、鈴木幹夫、中川邦仁も登頂。さらに28日に亀田正人、中島正徳、宮坂仁、笹森進也、29日にも夏目正徳、松岡清司、長谷川哲也が続き全員登頂を達成した。

これまで5隊を撃退してきたクラウンだが、いずれも南東稜にルートをとって失敗している。今回は全員登頂を考慮に入れて、氷雪主体の東壁にルートを求めた。平均傾斜50度の氷雪壁とミックス壁から成るこの壁は、秋の観察ではいつもなだれているという話だったが、ABCやC1からつぶさに見たところ大きなデブリは見られず、雪崩は降雪と同時に起きていることが分かった。したがって降雪時は停滞し、天候の回復を待ってルートを延ばす作戦が成功した。また、昼間は融水で滝となると聞かされた、ダイヤモンド・フェイスに抜けるガリーも、氷化していて通過可能だった。

さらに、BCからABCまで長さ25kmにおよぶ氷河上の荷上げに19人の低所協力員を使ったことも、隊員の体力消耗をおさえ、登山活動に余裕を生んだ。(徳島)

《日本山岳会東海支部皇冠峰登山隊》総隊長=湯浅道男(56) 隊長=徳島和男(48) 登攀隊長=酒井秀紀(32) 登攀リーダー=阿部哲也(30)、亀田正人(28)、中島正徳(28) 先発隊長=鈴木幹夫(26) 隊員=山崎彰人(26)、夏目正徳(25)、宮坂仁(24)、有富保之(24)、中川邦仁(24)、笹森進也(22)、松岡清司(21)、長谷川哲也(21) ▷山溪1994年12月 岳人1993年11月

#### Pt 6705(Kok Sel) コクセル 6705(6500)m

コングール(7719m)南稜上にコクセル・コルをへだてて立つ無名峰。川上隆総隊長、亀井英二隊長ら登山隊12人・学術隊6人の山形大学隊が初登頂した。

一行は7月26日カラクル湖(3600m)に着き、高所順応トレーニングとルート偵察。8月1日、コクセル氷河の4500mにBCを設けた。ルートは北西稜と定め、3日C1(4800m)を作るが、雪崩の危険があるため7日場所を移動した。11日C2(5500m)を設営。2日間ルート工作後、15日5900mにC3を出し、翌日佐藤俊一と古市久士が頂上を往復した。さらに17日、佐々木晋と高橋剛文、金庭貴晴も頂上に立ち、18日から撤収作業に入った。

なお、6705mという標高は米国防省の航空地図(500万分の1)のコンターから約2万1990ftと割り出された数値と思われるが、この地図では1000ft以内の誤差を含んでいる。新疆登山協会や喀什登山協会の略図では6500mとなっており、その根拠は中国政府の陸地測量であるという。航空地図が許容する1000ft以内の誤差を考えれば納得できる数値である。また、山名のコクセルは氷河の名称から命名。連絡官を通してこの名称で発表する許可を得た。

《山形大学・コーボルト会シルクロード学術登山隊》総隊長=川上隆(65) 登山隊長=亀井英二(52) 医師=生亀知侑(61) 隊員=鈴木修(56)、佐々木晋(46)、高橋剛文(30)、佐藤俊一(30)、秋葉敏浩(30)、古市久士(27)、

金庭貴晴(27)、田口登志江(26)、高品善(22) 学術隊長=岡田尚武(49) 同隊員=大津高(66)、笹瀬雅志(32)、大竹直(44)、斉藤昌之(36)、堤義信(35) 支援隊=10人 ▷コーボルト「コクセル峰初登頂特集」(同実行委員会刊)

#### Muztagh Ata ムスタグ・アタ 7546m

酒井国光隊長ら11人の日本ヒマラヤ協会隊が8月に全員登頂した。7月28日にカシュガルを発ち、29日から31日までスバシにとどまって高所順応活動と休養にあてる。8月1日4300mにBCを建設。3日、全隊員とロバ6頭で荷上げし、5200mにC1を建てた。7日C2(6200m)建設。8人がC2まで登り、他の3人は途中で荷物をデポ。全員C1に下った。10日A隊5人は6600mまで、11日B隊6人は6300mまで往復し、全員BCで休養した。

8月16日、西嶋鍊太郎、高橋敏雄、志小田美弘、中島俊弥、伊藤英世の5人はC3(6850m)を設けて翌日登頂。天城敏彦、樋上嘉秀、谷田川武、金森博之、池上邦彦と酒井隊長も18日に頂上を往復した。(酒井)

《日本ヒマラヤ協会ムスタグ・アタ登山隊》隊長=酒井国光(54) 副隊長=西嶋鍊太郎(50) 隊員=樋上嘉秀(49)、天城敏彦(46)、谷田川武(39)、金森博之(39)、高橋敏雄(34)、志小田美弘(34)、池上邦彦(32)、中島俊弥(28)、伊藤英世(26) ▷ヒマラヤ266(1994年1月)

#### Tuomuer (Pik Pobedy) 托木尔(トムール)峰 7435m

中国・新疆ウイグル自治区と旧ソ連邦・キルギス共和国の境界にあり、ロシア名はポベダ(7439m)。1990年に南面から挑んで雪崩のため隊長ら3人を失った横浜市立大学隊が'92年6月から7月にかけて再挑戦した。といっても大学当局の支援は得られず、学校名を冠することも禁じられたので、有志による天山登山倶楽部を名のつた。メンバーは、吉田宣明隊長ら6人とBCマネージャー1人の計7人。

6月28日にアクスを発ち、7月3日BC(3900m)着。3日後4350mにデポを置き、アイスフォールを突破して11日C1(4600m)を建設。13日5100mにC2を設け、翌日5800mに到達。しかし、その下降中吉田隊長がクレヴァスで足を負傷し、戦線を離脱した。15日、田村康一、真庭博之、稲田俊がC2に入るが、5800m付近で発生した雪崩の爆風を受け、テント、ヤッケ、寝袋等を紛失。幸い田村の軽傷だけで済み、雪に埋まった装備を回収してC1へ下山した。

7月17日、登山続行と決め、田村、佐藤修史、稲田の3人が翌日C1入り。19日、前回の位置から200m下げた地点にC2を再建するが、20、21日と降雪が続いたため断念。22日BCへ下山した。

《天山登山倶楽部トムール峰登山隊》隊長=吉田宣明(27) 副隊長=田村康一(25) 隊員=佐藤修史(24)、吉見敦司(21)、稲田俊(20)、真庭博之(23) BCマネージャー=相木美香(22) ▷報告書(同隊刊)



## 山岳年鑑'94

---

1994年10月25日発行

---

編集人 池田常道(岩と雪編集部)  
発行人 川崎吉光  
発行所 株式会社 山と溪谷社  
東京都港区芝大門1-1-33 郵便番号105  
電話 03-3436-4026(岩と雪編集部直通)  
03-3436-4055(営業本部直通)  
Fax. 03-5472-4430  
振替口座 00180-6-60249

---

印刷・製本 図書印刷株式会社

---

ISBN4-635-17607-X

定価はカバーに表示してあります。

---

乱丁、落丁本は送料小社負担にてお取り替えいたします。

## THE MOUNTAINEERING ANNUAL '94

---

Edited by The Iwa To Yuki. Editor: Tsunemichi Ikeda.  
published by Yama-Kei Publishers Co., Ltd., 1-1-33  
Shiba Daimon, Minato-Ku, Tokyo, 105 Japan. phone  
81-3-3436-4026, fax. 81-3-5472-4430.

---

© 1994 Yama-Kei Publishers Co., Ltd. Printed in Japan.

No reproduction in any form of photos, maps and  
articles of this annual is allowed without written  
authorization from Yama-Kei Publishers Co., Ltd.